



旭工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
村岡 良祐
(工業化学科3年)

新入生歓迎会

会場が盛り上がった

「一日でも早く活躍したい」

新入生歓迎会が4月11日の3～6時間目に体育館で行なわれた。今年から名称が「対面式・部活動紹介」から「新入生歓迎会」に変わった。

新入生歓迎会では初めに中山泰彰校長先生が「クラスや学年の横の関係はもちろん、学科の縦のつながりも大事に



パスを出すラグビー部の水口怜央君(建2)

生徒会活動の紹介動画が映し出された後、上口会長が生徒会役員を紹介した。部活動紹介では合計24の部・局・同好会がそれぞれの特徴をアピールし、部員の募集をした。



あいさつをする近藤晴斗君(機1)

放送局制作の学校と部活動、生徒会活動の紹介動画が映し出された後、上口会長が生徒会役員を紹介した。部活動紹介では合計24の部・局・同好会がそれぞれの特徴をアピールし、部員の募集をした。

近藤君は「このようなことをする機会はありません。とても緊張した。印象に残ったのはバレーボール部で、白鳥の衣装をつけた人が出てきて撃退されるのがおもしろかった」と話した。

小西輝君(電1)は「会場全体の雰囲気良く盛り上がった。特に印象に残ったのは野球部の一発ギャグ。部活

動は先輩から誘われたので新聞局に入ろうと思っていた」と話した。山本琥太郎君(電1)は「旭工は雰囲気が良いと感じた。旭工出身の兄の話どおりとてもぎやかで楽しかった。演劇部の劇は中学校では見る機会がなく、しっかりとした演技がおもしろかった。特に部長の演技がうまく印象に残った。会場が次第に盛り上がり楽しかった」と話した。

部活動に所属していない2年生2人に取材をした。楠美響太君(電2)は「1年生にとって有意義な時間になったと思う。見ていてとても楽し

局説

部活動に加入を

新入生の皆さんは高校生活を楽しんでいるだろうか。旭工独自の集団行動を通して規律遵守の重要性を理解しただろうか。立ち止まると意外にあいさつは慣れると意外に気にならないものである。

高校生活を有意義に

新入生歓迎会を通して様々な部・局・同好会を知ったと思うが、加入する部活動は決めただろうか。まだ決めていない人や加入する予定がない人には加入をおすすめする。部活動に加入すると、大会参加という経験をしたり、先輩や後輩がで

き年齢や学科が異なる生徒とつながりを深めたりできる。進路活動に有利になり部活動の経験が生かされる。みよう。

学びを深める 新入生代表として宣誓 長原慶弥君(情1)



趣味は音楽鑑賞

入学式の新入生代表で宣誓をした。このような機会は1年生で一人しかできないので、良い経験になった。宣誓は事前に一回練習した。入学式では人がとても多く緊張したが、スラスラ宣誓できて良かった。皆の前で大きな声で話すことができるの

で、また大人数の前で話す機会があればこの経験を生かしたい。旭工に入学した理由は、小学生のときからパソコンやプログラミングが好きで、もっと深く学びたいと思ったから。将来はゲームを作る会社や身近な電子機器を作る会社に就職したい。

入学後に集団行動で正しい整列を学び、この学校の様々なルールを覚えた。情報処理部に興味を持っていた。体験入部で様々なプログラムを見て、さらにプログラミングの技術を高めたいと考えている。

放送局との 連携強化を

副会長 熊谷慶嗣君

生徒会副会長の熊谷慶嗣君(機3)は新入生歓迎会について「2年生のH.R委員長に1年生の引率の説明と2、3年生への整列の指示をした。進行はスムーズだった。1年生の座る場所が壁までびっ

しりとなり、通路を確保できなかった。また、放送局との連携がうまくいかなかった。吹奏楽部と放送局は3時間目から準備とリハーサルをしていて、生徒会の担当者は前日に動きの確認と司会の練習をしたので、放送局との打ち合わせをしていなかった。来年度は連携を高めるために、放送局と生徒会の担当者が合同でリハーサルをしてほしい」と話した。



工具箱

旭工にはたくさんの方がある。まず紹介するのは工高祭だ。工高祭は2日間に行なわれる。1日目はクラスごとにステージでダンスや歌を披露する。2日目は一般公開され実習棟で各科の科展示やクラスで行なうクラス企画、2、3年生は駐輪場で模範店もできる。当日だけではなく準備期間も普段は話さない人とも会話ができて楽しい。▼次は旭工オリੰピックだ。

個人競技とクラスや各科対抗の競技がある。個人競技はトランプ競技とフィールド競技の二つがある。クラス対抗リレーや学科対抗リレーでは誰かがミスしても声を掛け合っ

ものづくり
コンテスト

情報技術科

電子回路組立部門

知識と技術を生かす はんだづけの練習を重ねる

第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会が5月15日の電子回路組立部門から始まる。電子回路組立部門に3人、電気工事部門に1人が出場する。それぞれの部門に出場する選手たちの意気込みを紹介する。



情報技術科3年生の香林秀明君と小林瑠生伽君、坂瀬陽斗君は5月15〜16日に苫小牧工業高校で行なわれる第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会電子回路組立部門に出場する。練習は毎日1時間半以上。競技内容は2時間半の制限時間内で基板に電子部品をはんだづけし、マイコンで制御基板上のLEDやモーターを制御する。そしてプログラムを組み、文字や時間を表す電光掲示板を製作する。競技は基板の奇麗さとプログラミングの完成度を評価する。

香林君は「電子回路の技術面をやってみたくと思ったので、大会に出ようと決めた。練習では、はんだづけの作業、電子部品の取り扱いに気を付けている。大変なところは、プログラムでエラーがあったら修正できるが、うまく動作しなかった場合は焦ってしまふところなので、冷静に対処する。今年は昨年よりも良い大会にしたい」と語った。

小林君は「旭工を卒業した兄がこの大会で優良賞を取った。その兄の姿に憧れて越えたいと思い、出場を決めた。気を付けていることは、やけどや切り傷、はんだづけではリード線に注意しながらはんだを漏らさないように付けること。昨年はあまりうまくいかなかったので、今年はスムーズにいくように作業したい。」

卒業設計コンペティション工業高校の部 安廣君が金賞受賞 アスレチック施設設計 街に活気を



卒業設計コンペティション工業高校の部(日本建築学会北海道支部主催)に3月に卒業した建築科の安廣駿太朗君と久保田

受賞した安廣君(右)と久保田君

悠友君が応募し、安廣君が最高賞の金賞、久保田君が銀賞を受賞した。旭工は4年連続で金賞を受賞している。

安廣君は買物公園への建設を想定したアスレチック施設「ASOBO」を設計。

安廣君は「まさか自分が受賞するとは思わなかった」と感想を述べ、「春先に構想を練り、設計を始めた。模型は10月から12月に完成し、2月に手直しをした。子どもたちが雨でも遊べる場所があまりなく、街に活気を取り戻したいと思い、この施設のアイディアが浮かんだ。さらに幅広い年代にも楽しんでもらえるよう大人たちの健康づくりも考えた」と語った。

久保田君は北彩都への建設を想定した「北彩都Fluss」を設計。直線的な建物は昔をイメージし、壁には赤レンガを思用して、昔の旭川の街並みを思い起こすような設計とした。4棟からなる複合施設の中には、A棟の商業施設にはシニア世代を意識した店舗が入り、C棟には博物館がある。B棟にはカフェテリア、D棟には商業施設がある。これらを結ぶのは忠別川に架かる神楽橋から名前を取った「神楽通り」という道だ。自然と人工物との間を楽しめるようになっていく。

密機械なので壊れないように気を付けたい。今は地道には」と述べた。

電気工事部門

電気科

速く丁寧に工事を 全国出場を目指す

電気科2年生の荻原優月君が5月21〜22日に旭工で行なわれる第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会電気工事部門に持ち点100点から減点方式で採点される。

電気科の細田一輝先生の勧めで出場を決めた。昨年11月から吹奏楽部とかけもちし、週1、2回のペースで放課後18時までものづくりの練習をしている。



金属管の曲がりを確認する荻原君(電2)

荻原君は「金属管曲げの作業以外はスムーズにできるが金属管を直角に曲げる作業が難しく、力加減で形が大

各部門の開催日と会場

- 電子回路組立部門(情報技術科) 5月15〜16日 苫小牧工業高校
- 電気工事部門(電気科) 5月21〜22日 旭川工業高校
- 木材加工部門(建築科) 6月19日 釧路工業高校
- 化学分析部門(工業化学科) 6月20日 札幌琴似工業高校
- 溶接部門(電子機械科) 6月26〜27日 北海道地区溶接技術検定委員会
- 自動車整備部門(電子機械科) 8月5〜6日 専門学校北海道自動車整備大学校
- 測量部門(土木科) 8月4〜5日 帯広工業高校
- 旋盤作業部門(電子機械科) 8月19〜20日 札幌工業高校

ボクシング部



ファイティングポーズをとる荻原君

荻原君 全国5位に カウンターで初戦を突破

ボクシング部の荻原魁大君(土3)は3月25〜30日に大阪府で行なわれた第36回全国高等学校ボクシング選抜大会の男子ウェルター(W)級に出場し、5位に入賞した。

荻原君は「目標だった1位ではなく悔しかったが、1回戦を突破して5位に入りすごくうれしい。全国大会に出場して、体づくりが他の選手よりもできていなかったのも、もっと筋力トレ

ニングや体幹トレーニングをして鍛えていく。また、相手との打ち合いに対応できていなかったのも、インファイトの練習をしたい。階級は69kg級のままでいく、体重が軽く身長も低いので相手の攻撃に耐えられるように階級のぎりぎりまで体重を増やしたい。自分の得意なスピードを生かしながら懐(ふところ)に入り込むのがうまくできた。試合中に逃げ腰だったときがあったが、ジャブが来たところにフックでカウンターできて良かった。頭を下げて過ぎて反則を多くとられたのと、手数が少なかったのが悪かった。相手の攻撃を避けたときに反撃できなかったことが残念だった」と話した。